

モモのカイガラムシ類情報第1号

令和7年4月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

クワシロカイガラムシの防除適期は5月8日から5月12日です。
タイミングを逃さないよう注意しましょう。

1 モモのカイガラムシ類について

モモを加害する主なカイガラムシ類は、クワシロカイガラムシとウメシロカイガラムシです。この2種の雌成虫は、枝幹などに寄生して越冬します（図1）。

例年4月中下旬から産卵が始まりますが、卵や雌成虫は介殻（カイガラ）に覆われて薬液が虫体に付着しにくいため、4月中下旬の農薬散布は効果的ではありません。農薬による防除効果が高い時期は、介殻に覆われていない1齢幼虫の発生ピークです。この時期を逃すと、防除効果は急激に下がります。



図1 クワシロカイガラムシの寄生状況

2 防除適期予測

1齢幼虫の発生ピークが防除適期です。本年の有効積算温度を利用した第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、クワシロカイガラムシが5月8日から5月12日です（表）。ウメシロカイガラムシはクワシロカイガラムシより5日程度早いと予測します。

表 クワシロカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日					
	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋
本年予測	5/8	5/12	5/12	5/8	5/11
(前年)	4/29	5/1	5/1	4/29	4/30
前年差	9日遅	11日遅	11日遅	9日遅	11日遅

注) 本年の予測日は、各地のアメダス平均気温を利用して計算。

4月16日までは本年実測値を、それ以降平年値を利用して計算。

前年については、前年気温の実測値を用いて計算。

予測は、今後の気温が平年並に推移することを前提としていますので、今後の気温によって発生ピーク日が前後する場合があります。4月17日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると向こう1か月の気温は高いと予測されていることから、発生ピークが早まる可能性があります。なお、各ほ場での1齢幼虫の発生ピークを正確に把握するには、各自で以下の方法で確認することが可能です。

確認方法：ピーク予測日の5日程前に雌成虫が寄生している部位に白色のビニールテープを巻き、その上から両面テープを巻きます(もしくは青色粘着板を設置(図2))。捕殺されたオレンジ色の幼虫(図3)をルーペで毎日観察し、発生量を確認します。

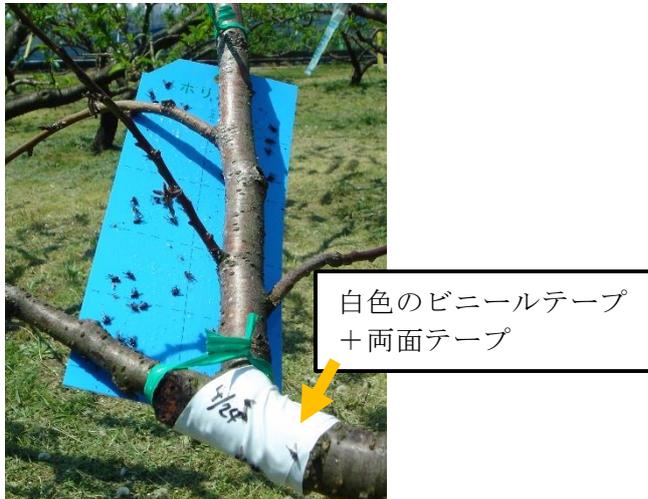


図2 1 齢幼虫確認方法



図3 ウメシロカイガラムシの
1 齢幼虫(体長 0.25mm)

3 防除

防除適期にアプロードフロアブル (FRAC コード: 16、適用病害虫名: カイガラムシ類幼虫) やモスピラン顆粒水溶剤 (FRAC コード: 4A) などで防除しましょう。

発生の多いほ場では、薬剤散布1週間後に系統の異なる薬剤で追加防除しましょう。